

<金標準、利下げの思惑高まり 12月高値 10028 円超え・・・>



(出所：オアシス)

PCE デフレーター の発表で予想外のインフレ抑制の動きに安堵した市場は、週末に発表された ISM 製造業景況指数が事前予想を下回る 47.8 となり、またミシガン大消費者信頼感指数も事前予想を下回る 76.9 となり、早ければ 6 月に利下げ期待が高まりを見せている。

またウォラーFRB 理事が FRB による住宅ローン担保証券 (MBS) の保有がゼロになることを望んでいると発言し、FRB の保有資産について、短期米国債の比率を高める方向にシフトさせたい考えも示した事から、短期 2 年債が買われて金利は低下している。

特に市場には CPI や PPI の上昇で早期の利下げ観測が後退してただけに、サプライズな経済指標となっている。また植田日銀総裁は会見でマイナス金利解除の時期について明確に示さなかった事から為替市場で 150 円台を維持する円安の恩恵もあり、金標準先物は 12 月の高値 10028 円を超えて 10072 円まで上昇を行っている。ただ一日 150 円を超える動きに買われ過ぎた印象が強く、飛び付き買いは避けた方が無難と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が上昇し、**シグナル** は切り上げている。また RCI では**短期** と **長期** が重なりながら +86% 以上で推移している。特に日足と **10 日移動平均線** の乖離が拡大しており、9850 円に向けた調整安に注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,390,000 円(2024 年 3 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 3 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>